



## トルコにおけるテロ動向(第 1 部)

現地時間 2006 年 8 月 27 日午後 9 時 30 分（日本時間 28 日午前 3 時 30 分）から 8 月 28 日午後 4 時 45 分（日本時間同日午後 10 時 45 分）にかけて、トルコのイスタンブールと同国南部にある観光地・リゾート地において合計 5 件の爆弾テロが発生し、少なくとも 3 人が死亡した他、少なくとも 71 人が負傷した。トルコでは今年（2006 年）に入り、主要都市及び観光地等を中心に爆弾テロが頻発しているが、今次一連の爆弾テロについても、クルド労働者党（PKK：Partiya Karkerên Kurdistan：Kurdistan Workers' Party）系のクルド解放の鷹（TAK：Teyrêbazên Azadiya Kurdistan：Kurdistan Freedom Falcons）が犯行声明を発した。TAK はこれまでの犯行声明の中で「トルコは安全な国ではない。外国人の観光客は来るべきでない」との警告を再三イスラム系ウェブサイトに掲載しており、今後も同様のテロが発生する可能性が高い状況である。下記は今次事件の概要・背景・トルコ国内で活動する主なテロ組織等についてまとめたものである。なお、本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2006 年 9 月 11 日作成「トルコにおけるテロ動向」から抜粋したものである。（「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005 年の実績で 58 編のレポートを提供した）

### 1. 今次事件の概要

下記は今次事件の概要である。

- ①現地時間 2006 年 8 月 27 日午後 9 時 30 分（日本時間 28 日午前 3 時 30 分）頃、イスタンブール（İstanbul）のバージュラル（Bagcilar）地区にある地区の政府庁舎前で爆弾が爆発し、6 人が負傷した。路上に置かれた小包の中の爆弾が爆発したとみられる。
- ②現地時間 8 月 28 日午前 0 時（日本時間同日午前 6 時）過ぎ、同国南西部ムーラ（Muğla）県のマルマリス（Marmaris）で、繁華街と浜辺を結ぶ小型バスで爆弾が爆発し、その後 15 分間に浜辺近くと住宅街でも爆弾が爆発した。これら 3 回の爆発のうち、小型バスの座席下に仕掛けられた爆弾による爆発では、乗客 16 人と付近を歩いていた 5 人の合計 21 人が負傷した。（負傷者のうち 10 人は英国人観光客とのこと）他の 2 件は、ごみ箱に仕掛けられていた爆弾が爆発したため、負傷者はいなかった。
- ③現地時間 8 月 28 日午後 4 時 45 分（日本時間同日午後 10 時 45 分）、同国南部アンタルヤ（Antalya）県アンタルヤ（Antalya）の繁華街の中にある庁舎ビル前に駐車してあった 2 台のバイク付近で爆弾が爆発し、3 人が死亡した他、少なくとも 44 人が負傷した。負傷者の中には、

イスラエル人（4人）・ドイツ人（3人）・ロシア人（2人）・フランス人・ヨルダン人・イラン人が含まれているとのこと。また、この爆発で、庁舎ビルがほぼ全壊し、周辺にあった商店等も倒壊したとのこと。

【図表 1：上記 3 件の爆弾テロ発生場所】



【地図出典：米国中央情報局（CIA）】

- ④ 今次事件の発生したマルマリスやアンタルヤは、トルコ国民だけでなく、欧州・中東・ロシアの観光客にも人気の海岸リゾート地で、事件発生時にも数多くの観光客でにぎわっていた。特に、アンタルヤで爆弾テロが発生した当時、現場近くは数多くの外国人買い物客でごった返していた。
- ⑤ 今次一連のテロ事件について、クルド労働者党（PKK: Partiya Karkerên Kurdistan: Kurdistan Workers' Party）系のクルド解放の鷹（TAK: Teyrêbazên Azadiya Kurdistan: Kurdistan Freedom Falcons）は 2006 年 8 月 29 日、イスラム系ウェブサイトにて犯行声明を掲載し、犯行を認めると共に「(今回のテロは) PKK のアブドゥッラー・オジャラン（Abdullah Öcalan: 現在トルコ国内で服役中）議長に抗議するために実施された。トルコは安全な国ではない。外国人の観光客は来るべきでない。われわれはトルコを地獄にすることを約束する」との声明を發した。

## 2. 背景

- 第一次世界大戦で敗戦国となったトルコは、1923 年 7 月 24 日のローザンヌ条約によりトルコ共和国として樹立された。初代大統領となったケマル・アタチュルク（Mustafa Kemal Atatürk）は、政教分離・ローマ字採用・女性参政権等、近代化政策をやつぎばやに断行し、トルコ近代化の基礎がつくられた。
- 第二次世界大戦では中立を維持したが、1950 年に成立したメンデレス（Adnan Menderes: 1950～60 年に首相）政権では、北大西洋条約機構（NATO: North Atlantic Treaty Organisation）・中央条約機構（CENTO: Central Treaty Organization）に加盟し、反ソ連・親西欧路線をとったが、経済の不振によって政府への批判が高まり、1960 年 5 月 27 日に軍部によるクーデターが起こり、メンデレス首相は失脚し、処刑（1961 年 9 月 17 日）された。
- その後、共和人民党（CHP: Cumhuriyet Halk Partisi）のイノニュ（Mustafa İsmet İnönü）、公正党（Adalet Partisi）のデミレル（Süleyman Demirel）が政権を担当し、ソ連との経済技

術援助協定の締結（1967年）等、外交の多角化も進められたが、軍事クーデター未遂や労働者・学生運動等で政情不安が続いた。

- 冷戦時代を通じ、NATO の前線基地となっていたトルコにおいては、1970年代から、西ドイツ・フランスの学生運動に刺激され、左翼運動が激化した。また、1970年代にはキプロス問題で軍事費が膨らみ、経済が悪化したことも左翼運動を助長し、更にそれに対応する右翼組織によるテロが頻発した。
- 1980年9月12日に軍事クーデターが起こり、二院制が一院制に変わる等の憲法改正が行われ、治安と経済が改善され、民政移管が行われた。しかしながら、左翼運動は継続し、更にクルド問題によるテロも頻発し、政情不安が続いた。1979年にイラン革命が起きるとキプロス問題で冷え込んでいた米国との関係も好転し、1990年の湾岸危機及び1991年の湾岸戦争では多国籍軍に基地を提供した。
- 一方、左翼運動に刺激され、トルコ国内のトルコ系以外の民族運動も勃興した。1975年にはアルメニア秘密解放軍（ASALA：Armenian Secret Army for the Liberation of Armenia）が結成され、1980年代半ばまで、中東・欧州で過激なテロ活動を行った。
- 一方、トルコ国内に約1,500万人（総人口の約20%）いると言われている（トルコではこれまで民族構成に関する調査は一切行われていないことからこの数字は推定である）クルド人についても、1975年11月にクルド労働者党（PKK：Partiya Karkerên Kurdistan：Kurdistan Workers' Party）が結成され、1984年頃からトルコ国内でテロを本格化させた。
- PKKは1980年代後半までは、主にクルド人が数多く居住する南東部において、トルコ政府・軍関係施設・関係者に対する爆弾テロ・誘拐を常套手段としていたが、1990年代初頭には都市部でのテロ活動を本格化させた。また、1993年以降、ドイツでの活動を活発化させた。特に1993年から96年にかけては、ドイツ国内にあるトルコ系銀行・航空会社・レストランやトルコ領事館等に対し、襲撃・占拠・放火等のテロを行っている。
- 1999年2月15日に潜伏先のケニアでPKKの指導者アブドゥッラー・オジャラン（Abdullah Öcalan）議長（以下「オジャラン議長」）が逮捕され、同年6月には死刑判決が言い渡され、刑が確定した。オジャラン議長は恩赦減刑のため、1999年8月に獄中から「和平宣言」を発表し、PKKに和平交渉を行うよう指示した。これを受け、2000年2月にはPKK指導部はトルコ政府に対する武装闘争停止を宣言したが、その後もトルコ政府軍はイラク等にも越境し、PKK掃討を継続したことから、2001年1月26日、オジャラン議長は弁護士を通じ声明を発表し、トルコ政府がPKK掃討を停止しなければ、武装闘争再開を示唆した。その後も、トルコ政府はPKKとの和平交渉を積極的に応ずる姿勢を見せないことから、PKKは2003年9月1日に一方的停戦を破棄し、その後PKKによるテロが頻発している状況である。（なお、2004年7月以降PKK系のTAKによるテロが頻発している）
- 2002年11月3日の総選挙において、レジェップ・タイップ・エルドアン（Recep Tayyip Erdoğan）党首が率いる公正発展党（AKP：Adalet ve Kalkınma Partisi）が34.3%の得票率を得て議会の過半数を制し、AKP単独内閣が誕生した。同選挙では、エルドアン党首自身は国会議員立候補欠格事由に当たり国会議員になれなかったために、盟友のアブドゥッラー・ギュル（Abdullah Gül）副党首が首相として第58代内閣を組閣した。その後、2002年12月に憲法を改正し、翌2003年1月には法律改正を行い、3月のシールト（Siirt）県の再選挙でエルドアン党首が当選し、国会議員となったことから、ギュル内閣は総辞職し、2003年3月14日、エルドアン内閣が発足した。
- 同党はエルバカン（Necmettin Erbakan）氏が率いた福祉党（RP：Refah Partisi）・美德党（FP：Fazilet Partisi）（いずれも政教分離の原則違反の廉で解党処分）を母体とするイスラム原理主義系政党ではあるが、イスラム色を抑え「保守」と「民主」を掲げている。2004年3月の統一地方選挙でも同党は全体で40%以上の得票率を得て、各特別市市長を含むほとんどの市長と多くの県議会・市議会の議席を獲得した。
- AKP政権は、トルコ国家政策であるEU（European Union）加盟実現を目指す方針を踏襲し、これまで4回（前エジェビット（Bülent Ecevit）政権時代に3回）にわたりEU加盟関連法を成立させ、EU加盟に向けて強い改革姿勢を示している。また、2004年5月には同目的のためには2回目となる憲法改正を行ったが、この改正で、国家治安裁判所が廃止され、従来、聖域とされた国軍への会計検査院の監査が可能になる等、EU側の関心の高い分野での改

革が進められている。

- イスラム原理主義的色彩を持つ AKP 政権が 2002 年 11 月に誕生したことにより、当初は PKK 及びイスラム原理主義系テロ組織は、好感を持っていたが、次第に欧米寄りの政策及びクルド問題等に対する強硬姿勢から、対決姿勢を鮮明にし、国内のテロが頻発する状況となっている。
- TAK が犯行声明を発しているテロ事件の多くは、外国人観光客をターゲットにしたものが多い。これは、同国へ訪れる外国人観光客が年間 2,000 万人に達し、観光収入は年間 180 億ドル（約 2 兆円）に達することから、経済的打撃を与えることを目的にしていると言える。また、TAK はイスラム系ウェブサイトで「トルコは安全な国ではない。外国人の観光客は来るべきでない」との内容の声明を再三発している。
- 2003 年 3 月の対イラク武力行使以降、米政府はクルド人問題に対処しているとしながらも、実質的に何の対策も講じておらず、トルコ政府の無策と米国の中東政策がトルコ南東部での PKK 等による反政府活動を頻発化させているとの指摘がある。
- なお、PKK については、オジャラン議長が逮捕された後、一部分裂したことが確認されており、同組織も大幅に弱体化しているとも言われているが、イラク国内のクルド人の地位向上、欧州に居住するクルド系住民の支援拡大等に伴い、以前よりも活動が活発化しているとの指摘もある。
- その他、トルコ国内ではイスラム原理主義テロ組織や毛沢東主義を標榜するテロ組織等もあり、いずれも活発な活動を行っている。

### 3. トルコ国内で活動する主なテロ組織

トルコ国内で活動する主なテロ組織は以下の通りである。

#### ①民族主義系

##### ■ クルド人民会議 (Kongra-Gel)

- (旧クルド労働者党 (PKK : Partiya Karkerên Kurdistan : Kurdistan Workers' Party))
- 1975 年 11 月にトルコの反政府クルド人組織を統合する形で設立された。
- 指導者はオジャラン議長であるが、1999 年 2 月にケニアで逮捕され、その後トルコに移送され、現在トルコ国内で服役中である。
- マルクス・レーニン主義を基にしたクルド地方の分離独立・革命・分離独立を目的としている。
- 初期における攻撃対象はトルコ国内におけるトルコ政府治安当局であったが、その後欧州全域でトルコ政府、トルコ人を対象とするようになる。特に 1993 年から 96 年にかけて、トルコ人外交官、トルコ商用施設に対する一連のテロが欧州全域で行われた。また、トルコの観光産業に打撃を与えるため、観光地・ホテルに対する爆弾テロや外国人観光客の誘拐を行っている。(これまでに 3 万人以上の犠牲者が出たと言われている)
- 2000 年 2 月にトルコ政府に対する武装闘争停止を宣言したが、2003 年 9 月 1 日に一方的停戦を破棄した。
- 2004 年 8 月 13 日にオジャラン議長の弟のオスマン・オジャラン (Osman Öcalan) 氏が武装闘争路線に反対し、同調者約 40 人と共に愛国民主党 (PWD : Patriotic Democracy Party) を設立した。
- 勢力は約 4,000~5,000 人と推定されている。また、欧州全域に数千人規模の支援者がいるとも言われている。
- 2003 年 11 月に「クルド人民会議 (Kongra-Gel)」に名称を変更した。(オジャラン議長の誕生日である 2005 年 4 月 4 日にクルド労働者党の名前を復活すると発表されているが現状では不明)
- 米国政府により海外テロ組織 (FTO : Foreign Terrorist Organizations) に指定されている。

##### ■ クルド解放の鷹 (TAK : Teyrêbazên Azadiya Kurdistan : Kurdistan Freedom Falcons)

- 設立年は不明であるが、2004年7月2日の東部ヴァン県で同県知事の車列近くで車に仕掛けられた爆弾が爆発した事件（知事は無事だったが3人が死亡）で初めて犯行声明を発している。
- トルコ領のクルド人地区の独立を目的としている。
- 2004年7月以降、主にイスタンブールや西部及び南部の海岸地域の観光地・リゾート地における爆弾テロを頻発させており、特に2006年以降、活動を活発化させている。（トルコ政府の経済運営において観光収入が重きをなしていることから、観光産業への打撃を目標としている）
- ウェブサイトでの犯行声明の中で、今後も観光地でのテロを示唆している。
- PKKのオジャラン議長が服役していることに抗議する旨を犯行声明で述べており、PKKから分派した組織であると言われている。また、2004年7月に突如として出現し、それ以降テロを増加させ、2006年以降更にテロを頻発させていることから、PKKが実施したテロをTAKの名前で犯行声明を出しているとも言われている。
- アルメニア人大量殺戮報復部隊 (JCAG: Justice Commandos against Armenian Genocide) (別名: アルメニア革命軍 (ARA: Armenian Revolutionary Army))
  - 1973年に米国ロサンゼルスで設立され、フランス・パリに支部があると言われている。その他、世界各地のアルメニア人コミュニティに細胞組織があると言われている。
  - 1975年から活動を開始したが、現在では活動は停滞している。
  - トルコからの分離独立を要求し、各国のアルメニア人居住区を統合したアルメニア共和国の樹立を目的としている。
  - 1915年から16年にかけてのトルコ政府によるアルメニア人虐殺（推定150万人）に対する報復を標榜している。
- アルメニア秘密解放軍 (ASALA: Armenian Secret Army for the Liberation of Armenia) (別名: オルリ・グループ (Orly Group))
  - レバノン内戦中の1975年にパレスチナ解放人民戦線 (PFLP: Popular Front for the Liberation of Palestine) の支援の下、ハゴップ・タラックチアン (Hagop Tarakchian) とハゴップ・ハゴピアン (Hagop Hagopian) により、ベイルートで設立された。
  - マルクス・レーニン主義を基に、現在トルコ領となっている旧アルメニア領の分離独立を目的としている。また、NATOによる帝国主義支配とシオニズム打倒を標榜している。
  - 1980年代初頭にモンテ・メルコニアン (Monte Melkonian) 率いるグループ ASALA-RM (Revolutionary Movement) とハゴップ・ハゴピアンが率いる ASALA-M (Militants) に分離した。
  - 1990年代を通じてほとんど活動はなかったが、2000年1月にアルメニア共和国のエレバン (Erevan) で戦闘再開を宣言している。

## ②左翼主義系

- トルコ労働者貧農解放軍 (TIKKO: Turkish Workers' and Peasants' Liberation Army)
  - 1970年代に創設された毛沢東主義を信奉する左翼系テロ組織である。
  - 南東部トゥンジェリ (Tunceli) 県を拠点に反政府武装闘争を行っていたが、現在では低迷している。
  - PKKのオジャラン議長が逮捕された翌月の1999年3月に中部チャンクル (Çankırı) 県でチャンクル市長を狙った爆弾テロ事件（4人が死亡・同市長を含む10人が負傷）を起こす等、PKKとの連携も指摘されている。
  - 2000年1月9日にトゥンジェリで発生した政府軍ヘリコプター撃墜事件（6人死亡）ではPKKと共に関与が指摘された。また、2004年5月20日にイスタンブールで発生したマクドナルド店の駐車場で発生した爆弾テロ事件に関与していたとして、メンバー1人が逮捕されている。
- トルコ人民解放軍 (TPLA: Turkish People's Liberation Army)
  - 1970年代初頭にアンカラ (Ankara) にある中東技術大学 (Middle East Technical University) の学生により創設された。
  - 毛沢東主義を信奉する都市ゲリラ型のテロ組織である。また、反米主義も標榜している。

- 1970年代を通じ、NATO関係者の誘拐事件・政府関係者の暗殺等を行ったが、1980年代以降は活動を停滞している。
- トルコ人民解放戦線党 (TPLF/P : Turkish People's Liberation Front / Party)
  - 1971年にマヒール・ジャヤン (Mahir Çayan) によって設立された左翼系テロ組織で、その後のトルコ国内での左翼系テロ組織の源流の一つとなった。
  - トルコ国内にマルクス・レーニン主義に基づいた国家樹立を目的としている。
  - 主にトルコ政府施設の爆破テロの他、米国ビジネスマン・イスラエル外交官の暗殺等を行っており、現在でもテロ活動は継続されている。
- デブ・ソル (Dev Sol)
  - 1978年にマルクス・レーニン主義を信奉する排他的な左翼系テロ組織として設立された。
  - 反米・反トルコ・反NATOを掲げ、トルコ治安機関・米国軍人等を主な標的にしている。
  - 創設者はドルスン・カラタッシュ (Dursun Karataş : 現在ギリシャ・アテネ居住) で、組織勢力は数百人と推定される。
  - パレスチナ過激派から軍事訓練を受けていると言われている。
- 革命人民解放党戦線 (DHKP-C : Turkish People's Liberation Party-Front)
  - 1994年3月にデブ・ソルから分派し、結成されたマルクス・レーニン主義を信奉する極左テロ組織で、反NATO・反米を標榜している。
  - 指導者はデブ・ソルの創設者のドルスン・カラタッシュで欧州各地に支部があり、ベルギーに中央委員会がある。
  - トルコ都市部で治安当局者の暗殺・政府及び財閥系企業の施設の爆破テロ等を行い、米国権益も標的にしている。
  - 1980年代後半から攻撃対象を現職・退職トルコ警察、軍備関係者に集中させ、1990年からは外国施設をも標的としている。また、湾岸戦争以降は米軍関係者をも標的としている。
  - トルコ治安部隊は2000年12月に同組織の支配下にあった刑務所を急襲し、活動家を独房に移送し、弱体化を図ったが、その後もテロは続いている。
  - 2001年9月10日のイスタンブールでのドイツ総領事館前自爆テロ事件 (4人死亡・20人負傷)・2003年5月20日のアンカラでの喫茶店自爆テロ事件 (1人死亡・1人負傷)・2004年6月24日のイスタンブールでのバス自爆テロ事件 (4人死亡・15人負傷)・2005年7月1日のアンカラでの法務省ビル自爆テロ未遂事件等を起こしている。
  - 米国政府により海外テロ組織 (FTO : Foreign Terrorist Organizations) に指定されている。

### ③イスラム原理主義系

- トルコ・ヒズボラー (Turkish Hezbollah)
  - 1979年のイラン革命後にトルコ南東部においてイスラム法 (スンニー派) に基づくクルド人国家樹立を目的に設立された。
  - メンバーの大半がスンニー派クルド人で、イスラム国家樹立等、イスラム原理主義を基本にしている。(イランから支援を受けているとも言われている)
  - 1980年代後半からテロ活動を開始したが、PKKへの攻撃が主であったことから、トルコ当局が支援していたとも言われている。(トルコ当局はこれを否定)
  - 1990年代に入り、標的はPKKから一般社会 (酒屋等への爆弾テロ等) へと変化したことから、トルコ政府は2000年1月17日にイスタンブールのアジトを急襲し、同組織の指導者であるフセイン・ベリオグル (Huseyin Velioglu) を殺害した。
  - これに対し、2001年1月26日、ディヤルバクル (Diyarbakır) の警察署長等5人を射殺する等の報復テロを行った。また、2003年11月15日のイスタンブール・シナゴグ同時爆破テロ事件 (30人死亡・300人以上負傷) 及び2003年11月20日のイスタンブールHSBC・英国総領事館付近での自爆テロ事件 (32人死亡・約450人負傷) の2つの大規模テロ事件についても関与が疑われている。
- 大東方イスラム砲撃戦線 (IBDA/C : Great Eastern Islamic Raiders' Front)
  - 世俗主義のトルコ現体制を否定する過激組織で、1970年頃から活動を開始した。

- 組織の目的は、武装闘争によるイスラム国家樹立であり、イスラム原理主義的色彩が強い。
- イスラム原理主義的な色彩は強いが、宗派としてはスンニー派であり、イランとは一線を画している。しかしながら、トルコの現体制を崩壊させるとの目的を持った他の（イスラム原理主義的な）テロ組織（トルコ・ヒズボッラー等）とは多くの面で連携している。
- 拠点は東部地方であるが、活動は主にアンカラやイスタンブールといった都市部が中心である。
- サリフ・エルディシュ氏（Salih İzzet Erdiş : 別名 Salih Mirzabeyoglu）が指導者で、組織内では「司令官」（Commander）と呼ばれている。なお、同氏は 1998 年 12 月 29 日に逮捕され、1999 年 4 月 1 日から服役している。
- 組織は出版宣伝部門と武装闘争部門に分かれている。最大の特徴は出版宣伝部門が行っている情宣活動である。出版宣伝部門は数多くの書店を有し、印刷所も所有している。また、ウェブサイトでも情宣活動を行っている。現在、「NEW EXPECTED REGIME」という定期刊行物を発行している。
- 武装闘争部門は、極めて少数の細胞（通常 3~5 人）で構成され、それぞれ独自の判断でテロを行うことが一般的である。そのため、実行グループ以外のグループには情報は行かない仕組みとなっている。
- 構成員の数は不明だが、支援者を含めても 500 人以下と言われている。1990 年代を通じてトルコ治安当局の大規模な摘発を受け、壊滅的な打撃を受けたと言われており、最近では目立った活動は行っていない。
- 主なテロの手口は火炎瓶（Molotov cocktails）による放火や破壊活動である。また、主な攻撃対象は以下の通りである。
  - ・キリスト教・ユダヤ教等のトルコ国内少数派の教会・基金・団体
  - ・テレビ局・新聞等の関連施設
  - ・トルコ共和国の建国の父であるケマル・アタチュルクの像
  - ・レストラン・銀行・遊興施設・タバコ屋
  - ・商人 等

なお、上記から分かる通り、現状においてトルコ国内で活発な活動を行っているのは、FTO にも指定されている **PKK・DHKP-C** の他、PKK の分派と思われる **TAK** 及びトルコ・ヒズボッラーであると言える。

（第 2 部に続く）

本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2006 年 9 月 11 日作成「トルコにおけるテロ動向」から抜粋したものである。（「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005 年の実績で 58 編のレポートを提供した）

（第 106 号 2006 年 11 月発行）